

奥富地区吹上自治会

当自治会は下奥富の中央に位置し、東西に細長い120世帯余りの自治会です。昔は稲作農家がたくさんありましたが、時代の背景から会社勤めの家庭が多くなりました。年中行事では、春に全自治会員で川の清掃、定期総会、懇親会などで親睦を深めます。夏の観音様日待ちは自治会最大の行事で、子ども神輿も出て夏の一夜をみんなで楽しめます。また、7月上旬の日曜日には八雲神社の大祭(天皇様のお祭り)が行われます。今年には3月に八雲神社の社殿が新築されたのをはじめ、私立西武文理小学校の開校、柏原新狭山線の開通で景観が様変わりし、心新たな気持ちでわが自治会を見返す今日このごろです。



手作りの神輿や灯籠が祭りを盛り上げます



わかるかな？ 今月の写真クイズ

写真は、今月の広報さやまに掲載してある写真の一部を拡大したものです。何ページの何の写真でしょうか。

解答をお寄せいただいた正解者の中から、抽選で5名に記念品を差し上げます。官製はがきで広報課宛お送りください。締切り9月30日(当日消印有効)

8月10日号の答え

表紙の写真「こども動物園のサマー・スクール」でポニーの鼻の写真でした。



表紙の写真

8月22日(日)、県内有数の環状集落・宮地遺跡(笹井)で、発掘調査の見学会が行われました。市内はもちろん県内・都内から集まった約100名の皆さんは、4,000年前の遺跡を間近に見て、当時の暮らしに思いをはせました。見学会では活発な質問が寄せられ遺構から見た古代人の建築ルールなどの説明が好評でした。

池原 昭治

さやまの会本

第112話



動物にまつわる昔話 その4

動物を題材にして、狭山市で語られた貴重な昔話を紹介します。

スズメとカラスは仲がよい話

「昔ねえ、カラスはたいそう利口な鳥だったんだって、それで、みんなからたいそうし たわれておったそうだよ。」

それでね、少し利口なスズメ達は、自分たちよりも利口なカラスのそばで遊んでいれば、決してまちがいが無いと思っていたんで、いつもカラスにくつついて遊んでおったそうだね。このことをよく知っていた人間は、日ごろから取り入れたばかりのお米や、畑の作物を食い荒らすスズメ達に、ほとほと困っておったのでカラスを紙で作りの、網を張って、スズメをおびき寄

せ、一網打尽にしたそうな

7月に続いて

ご紹介するのは、奥富の前田に生まれ、大芦に嫁いだ生粋の狭山っ子の故・佐藤つるさんが生前に語った昔話です。

この話は、人間がカラスをおとりにして、スズメを獲ったという話で、利口なはずのカラスより、人間の方がもっと利口だったという内容です。

